

新 関西談 笑

エリート育成は覚悟が必要 半年で私語をさせなくした。

「ハーバードというとなんとなく「世界一」というイメージはありますけど、じゃあ何が世界一なのかというところからない」

河田 ノーベル賞の獲得数の多さ「ハーバード大は24個で世界一(ノーベル財団のホームページから)」をみると分かるように、教育研究の質の高さは群を抜いているが、なによりも社会のリーダーたるべき「エリート」を育てようとしているところですよ。そこが、うちの学部の方針と合致している。

——どうやって?

河田 うちの学部では、危機管理の専門家を育てようとしている。危機管理というのは先に起こることを予測して常に備えてないといけない。そのためには、すぐれた現場感覚と即時対応の判断能力が必要とされるけど、当然、それには幅広い知識と経験、行動力が

関西大学社会安全学部長 河田 恵昭さん



(渡守麻衣撮影)

求められるでしょ。それができるのは組織のリーダーに必要な資質であり、それを備えているのがエリートだからね。

——日本では「エリート」という言葉は死語と化していますね

河田 今の政権運営の状態でみると分かるじゃない(笑)。エリートがいない。この世をどつするかという哲学が全くないものね。まあ、それだけうちの学部の存在価値が高まるん

だけだね。でもそういうエリート育てるのは相当の覚悟が必要だ。

——この春入学した一期生にはどんなスパルタ教育を

河田 まず、「大学は学問するところだ」という意識を植えつけることから始める。京大でもそうだけれど、今の学生は私語が多いでしょう。半年で私語をさせなくした。

——どうやって?

河田 私語をするという

のは、何をしたらいいのかわからないから退屈している状態。だから、手取り足取り、大学生としての心得をまず教えた。学生280人を10クラスに分け、それぞれ担任(教授1人、准教授1人)をつけて、講義の聴き方、論文の書き方、発表の仕方、ディベートの仕方とか、大学生に必要なツールを15週間にわたり入門演習ということで教えた。

そして前期のおわりに1泊2日で学外学習して、今度は

は、学生の要望をきいて、カリキュラムの進め方に取り入れた。そうすると、学生自身に責任が生じるでしょう。すると後期から私語はしなくなりました。

——なるほど。それで授業の方は何を

河田 うちの文系だの理系だのといった従来の枠組みを超えた学部だからね。全員に数学と英語の勉強をさせる。数学は社会調査の統計解析が必要だから。特に英語とコンピュータがおろそかだと卒業生と認めない学生に言い渡してある。ハーバード目指すのに英語ができないのは何(こと)だと(笑)。

——教える方はみな英語ができるんですか

河田 理系の先生は英語で論文書くんだけど、文系の先生は3分の1くらいかなあ。大学の教員を名乗っていない、世界と勝負できないのはダメだという方向にもっていくように思っていますね。

(聞き手 北村理)